

樟木館日和

しゅもくかんびより◆第八号



発行日:2013年9月26日

発行:文化のみち樟木館

指定管理者:特定非営利活動法人樟木俱楽部



大正末期、

陶磁器の貿易商として
活躍した井元元為三郎によって
建てられた樟木館。

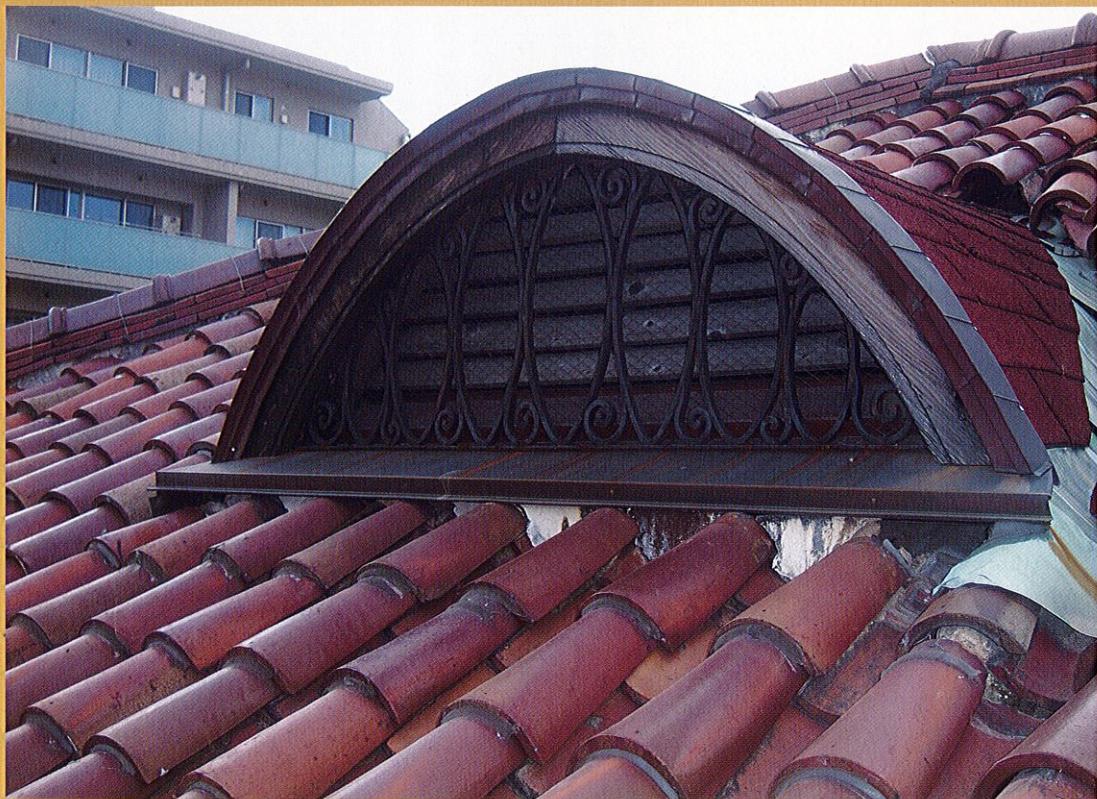
七月より、洋館屋根

改修工事が始まりました。

赤茶色のスペイン瓦が
見上げ続けたあの日の空は、

今は遙か遠い昔。

晴れる空、曇る空、星降る空も。



甦るスペイン瓦

よみがえ

甦るスペイン瓦

「文化のみち 檀木館洋館屋根改修工事」
工事期間 平成25年7月16日(火)から平成26年1月上旬(予定)

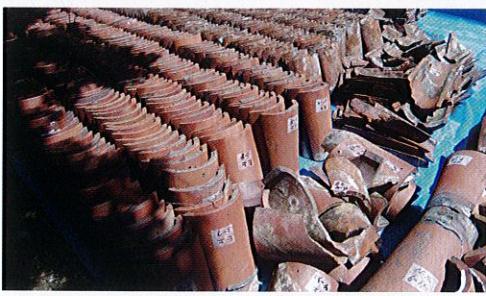
よみがえ

檀木館の洋館は、大正末期から昭和初期に建てられました。室内にふんだんに使われたアーレルデコ様式のスティンドグラスや赤茶色のスペイン瓦の屋根はそのシンボルともいわれています。90年近くの長い年月の老朽化とともに、七月からこの洋館の屋根の改修工事がはじまりました。「工事中にご来館いただくなお客様に少しでも気持ち良く檀木館のご見学をしていただけるように、通路や安全確保を常に心がけています」と語るのは(株)魚津社寺工務店の後藤千夏さん(写真)。女性の現場監督です。仮設の足場を、今日も軽やかに屋根まで上がります。スペイン瓦と言えば、地中海沿岸に並び建つ、真っ白な漆喰塗りの家々に使われている鮮やかなオレンジ色の瓦で有名ですが、曲面の瓦を凹凸交互に重ねる工法は、日本の古来の木造建築や社寺建築で用いられる本瓦葺きと良く似ています。同じ形の瓦を順に重ねる現代の一般的な工法より、手間も時間もかかりますが、美しい色彩と暖かな素焼きの風合いを持つスペイン瓦が描く陰影には、独特の立体感と趣きが感じられます。長い年月の風合いが重なった檀木館洋館のスペイン瓦は、抜けるような青い空、曇り空、季節によって変化するそれぞれの空の下で、日々色々な表情を見せてくれます。大正末期、陶磁器の貿易商として活躍した井元為三郎が、多くのバイヤーを招待し、商談の場を使つたと言われるこの洋館のスペイン瓦には、為三郎の美意識の高さと深いこだわりをうかがい知ることができます。洋館正面屋根の頂上にある、半円型の風通しにはどこされた優雅で洗練された美しいアイアンの装飾(表紙写真)もまた、そのこだわりのひとつと言えるでしょう。



(株)魚津社寺工務店
現場監督の後藤千夏さん

現場監督の後藤さんに今回の工事の様子をうかがいました。
「檀木館の洋館の屋根は、当時の建築工法として、屋根の下地に土を敷き詰めた上に瓦を載せていました。今回の瓦の撤去時には、大量の土がでてきました。もとの場所がわかるように番号をつけ、全ての瓦を一枚ずつ大切に外し、丁寧に土をはらい、状態を調査しながら(写真)不足



不良分の瓦に関してはその形状や色に似た瓦を新たに焼き直して作り、再び取り付けます」瓦の総数は約6000枚。修復のための地道な作業が段取り良く進められています。

家族何代にも渡って、ひとつのかなに暮らす文化を持つスペインの人たちにとって、スペイン瓦の屋根の手入れは、それぞれの家の歴史を重ね続けることであります。

● 11月3日(日)午後1時30分～午後3時
会場：和室
徳山流・津軽三味線の演奏と家元の弾き語り『聴く・感じる・触れる』
津軽三味線 童謡童話＆お稽古体験



昨年のコンサートの様子

11月3日(日)文化のみち2013
今年も名古屋城から
徳川園に至る
「文化のみち」一帯で、様々なイベントが催されます。
檀木館では、毎年好評のコンサートを催します。
紅葉美しい庭を眺めながら、徳山流家元の軽快なお話をまいえながらの三味線コンサートです。
童謡の弾き語りやお稽古体験もお楽しみいただけます。

11月3日(日)文化のみち2013
今年も名古屋城から
徳川園に至る
「文化のみち」一帯で、様々なイベントが催されます。
檀木館では、毎年好評のコンサートを催します。
紅葉美しい庭を眺めながら、徳山流家元の軽快なお話をまいえながらの三味線コンサートです。
童謡の弾き語りやお稽古体験もお楽しみいただけます。

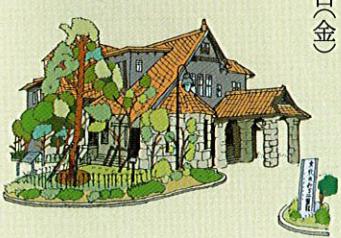
文化のみち二葉館 秋のイベント案内 画家・柳瀬辰久「水墨の扉」展

渾身の思いで表現された屏風を前にすると作品たちが語り始めます。秋の一日に、眼でそして心で水墨の世界を感じてみてはいかがでしょう。

● 11月3日(日)～11月8日(金)

会場：文化のみち二葉館

入場無料、但し要入館料



「歩こう！文化のみち 2013 津軽三味線コンサート」

11月3日(日)文化のみち2013
今年も名古屋城から
徳川園に至る
「文化のみち」一帯で、様々なイベントが催されます。
檀木館では、毎年好評のコンサートを催します。
紅葉美しい庭を眺めながら、徳山流家元の軽快なお話をまいえながらの三味線コンサートです。
童謡の弾き語りやお稽古体験もお楽しみいただけます。

文化のみちがのこしたもの

NPO法人 樟木俱楽部 副理事長 細江正俊

名古屋城から徳川園に至るこのエリアには、江戸から明治、大正へと続く名古屋の近代化の歩みを伝える多くの建物など、貴重な歴史遺産が残されている。「文化のみち」と名付けられ、建築遺産の保存・活用が進められているこの地域は、江戸時代、約六百坪に区画割りされた武家屋敷町であった。また明治半ばには、陶磁器の生産地で有名な瀬戸・多治見や堀川にも近く、船積みにも便利だったことから、陶磁器の絵付け・加工業者などが集まり、昭和初期には六百をこえる工場で輸出用の陶磁器が生産されていた。「文化のみち樟木館」は、当時の陶磁器商であった井元為三郎が、大正末から昭和初期にかけて建てた邸宅である。洋館にはステンドグラスが贅沢に使われており、為三郎は輸出陶磁器の商談を行うため、多くのバイヤーを海外から招待していたと言わされている。地価高騰などから、多くの古い邸宅が壊されていくなか、樟木館は奇跡的に残った。そして平成八年から一四年にかけての市民活動による一般公開や文化的なイベント開催を経て、愛知万博が開催された平成一七年に、井元家から提供されたこの樟木館を舞台に「樟木俱楽部」が出来た。その当時の活動記録である「樟木俱楽部通信」には、「史跡・建築」「人・店・祭」「教育・学校」など、カテゴリー別にイベントの企画・運営や情報発信がなされていた記録が綴られている。平成一九年、名古屋市が樟木館を所有したことをきっかけに、それを管理運営する母体として「NPO法人 樟木俱楽部」に生まれ変わり、平成二一年に新たに一般公



樟木町3丁目に建てられた井元商店

文化のみち



開されてから今日に至るまで、展覧会や演奏会など、市民参加の様々なイベントを通じて「文化のみち」の周知に努めてきた。私は、縁あって一年半前から、NPO法人 樟木俱楽部の副理事長を務めている。「文化のみちがのこしたもの」というテーマ執筆にあたり、過去の樟木館の活動などを調べてみると、平成一七年八月の樟木俱楽部通信第1号に、「情妙寺交趾渡航図」の記載がある。そこには尾張の茶屋家が四百年前に徳川家康から朱印状を公布され始めた「朱印船貿易」の絵巻物が、茶屋家の菩提寺である情妙寺(東区筒井町)に献上されたことが綴られている。今年は朱印船貿易の相手国であったベトナムとの国交樹立40周年記念という事で、「日本ベトナム友好記念事業」の様々なイベントが愛知でも催された。一方「文化のみち樟木館」では、あいちトリエンナーレ2013協賛企画(パートナーシップ事業)として、「奥州梁川松家と尾張徳川宗春展」、樟木館のルーツである陶磁器関係イベントとして、「一般財団法人名古屋陶磁器会館」の協力のもと、「陶磁器の凸盛り絵付け実演とトーク」の二つが同じ9月に企画された。

以上のように、樟木館が「文化のみち」として残した歴史から現在の活動までを見てきたが、今後も名古屋市指定管理者という立場から、樟木館及び文化のみちでの色々な活動により、市民を中心とした参加者に、文化のみち界隈の歴史・街並み・文化を、それぞれの人達の感性で味わっていただければと考えている。また、樟木館の「貸室」でも文化活動が促進され、いつ樟木館を訪れても「文化のみち」を共感できるような企画が催されるように働きかけていきたい。

平成25年度 催し物暦（4月～8月）

4／2～4／7

春のテーブルコーディネート展

4／24～5／6

名古屋近代建築散歩



5／31～6／2

木工家ワイーク
NAGOYA・2013

6／12～6／23

日本アルプス名山写真展



8／8～8／25
“秘境駅と断崖絶壁”
飯田線の旅写真展



文化のみち樟木館では、館主催イベントをはじめ、貸室利用によるイベントを年間を通しておこなっています。当館では和室・洋室・茶室・蔵・庭をお貸しします。詳しくは下記の電話番号、ファックス番号へお問い合わせいただぐかホームページをご覧ください。